## 絞扼性腸閉塞の手術を受けられた患者さんへ

福岡東医療センター 外科では以下の研究を実施しています。

この研究は、過去の診療情報を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」と呼ばれる学術活動です。過去に実施された検査の結果等の診療情報等を利用しますので、患者さんに新たにご負担いただく検査や治療はありません。また、学術論文や学会で公表する場合も、個人情報の保護には十分配慮し、第三者には誰のものか一切わからないようにします。

患者さんにはご自身の診療情報が使用されることを拒否する権利があります。本研究の対象に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に使用されることを希望されない場合は下記の問い合わせ先にご連絡ください。既に学会や論文発表が行われている場合はデータを削除できない場合がありますのでご了承ください。なお、研究協力を拒否された場合でも、患者さんが診療上で不利益を被ることはありません。

| | |
|---|---|
| 【研究課題名】 | 絞扼性腸閉塞はすべて即時手術を要するか―腸管壊死低リスク因子の検討― |
| 【研究実施期間】 | 倫理委員会承認後～2028 年 3 月 31 日 |
| 【研究実施期間・研究責任者】 | 独立行政法人国立病院機構　福岡東医療センター　外科<br>研究責任者　由茅　隆文 |
| 【対象となる方】 | 西暦 2020 年 1 月 1 日から 2025 年 12 月 31 日までに、当院外科で絞扼性腸閉塞に対して手術を受けられた方 77 名 |
| 【研究の意義、目的、方法】 | 絞扼性腸閉塞は、腸管が締め付けられることで血流障害をきたし、腸管壊死に進行する可能性があるため、一般に緊急手術が必要となる病気です。一方で、手術まで時間を要しても腸管壊死に至らない患者さんもいます。<br>本研究では、過去の診療記録を用いて、腸管壊死を認めた患者さんと認めなかった患者さんの背景、診察所見、血液検査、CT 画像、手術までの時間、手術所見などを比較し、腸管壊死の危険性が低い患者さんを術前に見分けられるかを検討します。これにより、絞扼性腸閉塞に対する適切な手術時期の判断に役立つことを目的とします。 |
| 【利用する情報の種類】 | 絞扼性腸閉塞の診療に関する臨床情報（年齢、性別、症状・身体所見、血液検査(WBC,LDH,乳酸,CRP)、CT 等の画像検査、発症・検査から手術までの時間、手術所見・術式、腸管壊死の有無、術後経過・転帰） |

| | |
|---|---|
| 【個人情報の保護】 | 研究に際して、生年月日、カルテ番号、住所、氏名などの個人が特定できる情報は収集しません。また、研究の結果を公表する際も個人が特定できないよう配慮いたします。 |
| 【問い合わせ先】 | 独立行政法人 国立病院機構 福岡東医療センター<br>研究責任者： 外科　　由茅　隆文<br>住所：〒811-3195 福岡県古賀市千鳥 1-1-1<br>電話番号：092-943-2331 （代表） |